

矢作川流域圏懇談会通信

H26 山部会編 vol.6



発行日：平成 26 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 21 回山部会WGを開催しました！

10 月 17 日（金曜日）に第 21 回山部会WGが岡崎市ぬかた会館にて開催されました。今回の WG では、「山村再生担い手づくり事例集」、「森づくりガイドライン」、「木づくりガイドライン」について、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。翌日は、岡崎市の森づくり（宮崎財産区林、巴山・分水嶺など）を現地調査しました。



日時：平成 26 年 10 月 17 日（金）14 時 00 分～17 時 00 分
場所：岡崎市 ぬかた会館 2 階 会議室
参加者：29 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



「山村再生担い手づくり事例集」は、事例集の取材先候補として 21 団体（流域連携の面から川・海の団体も取材先に含む）を選定し、取材先と取材者のマッチングを行いました。矢作川流域圏懇談会に所属する個人・団体の方で、取材への参加を希望する方は是非、申し込みをお願いします。

事前検討会を 10 月 31 日（金）に実施し、事例集のとりまとめ・取材について検討をすすめていきます。



2. 矢作川流域圏木づくりガイドラインについて



矢作川流域圏木づくりガイドラインについては、矢作川流域圏の木づくりの推進を実現するため、市民の視点から「さあ～しよう」の形を基本形とし、市民がアクションを起せる木づくりガイドラインを作成しています。

「さあ～しよう」のフォーマットにあわせて皆様からの提案を募集中です。既に今回の WG で示された提案については、フォーマットにまとめていくこととなりました。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



矢作川流域圏森づくりガイドラインについては、矢作川流域圏の特徴的な森づくりについて所属する行政や市民の方々から森づくりに関するデータを収集し、情報共有を行っています。

今回は、蔵治座長による「広島土砂災害から考える矢作川流域土砂災害未然防止」と題した話題提供（発表）を頂いたうえで、開催地である岡崎市における森づくりについて、岡崎市（林務課）、岡崎森林組合、額田森林クラブの方からご意見などいただきながら情報共有を図りました。



4. 現地調査（岡崎市の特徴的な森づくり）



現地調査は、岡崎市内の特徴的な森づくりを中心に、宮崎財産区林、巴山・分水嶺、長坂 100 年長伐期林、ミツマタ長伐期林を対象に行いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

今年度取材を行う 21 団体と取材者のマッチングを決定し、今後は以下のように進めることとなりました。

8月末(取材先の確定) → 9月中旬(取材者の募集、確定) → 9月末(取材者と取材先のマッチング)
 → 10月~12月中旬(取材):事前検討会 10月、中間報告会 11~12月
 → 調査者によるレポートの作成・提出、編集会議、事例集の完成(12月~3月までを予定)
 → ふりかえり(1~2月)

○マッチング結果

取材先	取材者
木の駅ねばりん、ねば杉こ餅、竹内牧場	*沖章枝、松井賢子、浅田益章
グローバルハム、矢作川森林塾、矢作川水族館	*山本薫久、國村恵子、田中五月
三宅林業、東幡豆漁業、佐久島もんべまるけ	*丹羽健司、洲崎燈子
アンティマキ、てくてく農園、あさひ若者会	*蔵治光一郎、大島光利、森本徳恵
足助里山ユースホステル、新盛里山耕流塾、近藤しいたけ園	*浜口美穂、蜂須賀功
こいけやクリエイト、アクロフェルタ、とよたプレーパークの会	*近藤朗、高橋伸夫、真柄明洋
じさんじよの会、額田林業クラブ、宮ザキ園	*今村豊、唐澤晋平

*はチームリーダー



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域圏森づくりガイドラインについては、矢作川流域圏の特徴的な森づくりについて所属する行政や市民の方々と森づくりに関するデータを収集し、情報共有を行っています。

○主な意見

- ・ 地域のみなさんには森林の重要性・間伐の重要性を理解してもらえるような活動として、間伐体験などを行っている。地域でも、ベンチやテーブルをはじめ、第2早蕨幼稚園等、公共施設に地域材を使ってもらうなど取り組んでいる。(山本)
- ・ 収入につながる起業や集団化を考えていかないと山が育っていかない。額田の中でもビジネスチャンスがあると思っているが、なかなかいいアイデアがない。(竹川)
- ・ 組合運営としてできる範囲がある。市が策定した計画に基づき 450ha を対象に、30年やる計画で動いている。国や県の補助がないと厳しいのが実態。(眞木)
- ・ 森林所有者の意識はいろいろあるが植林している放置林の人たちの手助けをする施策を考えていく必要がある。県道や市道沿いから 300m 離れた場所を対象としている。施業がしにくい箇所が対象。林道沿いこそ公的資金でやればよい。(日高)
- ・ 土砂災害について、山の上から木が流れてくると、山の下腹部で手入れをした森林の手入れが台無しになってしまうため、心配している。(沖)
- ・ 防災という面で、京都府では危険森林を条例で位置づける動きがある。間伐の義務に対する違反に対して罰則を設けている。来年春に条例化する可能性がある。(蔵治)



○「広島土砂災害から考える矢作川流域土砂災害未然防止」(話題提供：発表)

- ・ この夏、広島を襲った局地的な大雨によって生じた土砂災害と森林整備について、災害後に現地へ入った蔵治座長より話題提供がありました。発表では「森を放置することで土砂災害に繋がるケースが多いこと」や、都市化により「これまでに人が住んでいなかった地域にも住居が広がっており被害拡大の1つの要因となったこと」などのお話を頂きました。

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

スギタラケクラブ矢作川流域圏支部の設立が、参加者一同で確認されました。(連絡先は根羽村森林組合となりました。) 今後の木づかいガイドラインでは、以下の6点を中心にWGで進捗について共有することとなりました。

○主な意見

木づかいガイドライン	今後の方向性(次回WGで共有すること)
1. 木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について	各提案にメンバーが該当すること等について、メンバーから意見をだしていきます。
2. 木づかいガイドラインの原稿依頼について	ガイドラインの原稿執筆についてのお願いを今後していきます。
3. 木づかい推進・木づかいガイドライン事業のための各市町村連携による予算化について	「さあ~しよう」にそって、実現性が高いテーマについて今後、検討を行っていきます。
4. スギタラどこでもシリーズの製作内容について	どこでも〇〇についてアイデアを募集します。(どこでも露天風呂、どこでもウッドデッキなど)
5. スギタラ矢作川流域支部の発定及びコンセプトについて	コンセプトを読んで感想などを次回共有します。
6. スギタラキャラバンについて	製品について根羽村森林組合が製作して矢作川流域圏でモニターを募って行くこととなりました。



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の第22回山部会は11月21日(金) 恵那市にて開催します。

